

第2回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	平成 27 年 10 月 28 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 4 時
開 催 場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出 席 者	<p>【委員】 間瀬勝一委員長、山本貞副委員長、和泉利政委員、恵志美奈子委員、大谷宗弘委員、岡本直美委員、木村江里委員、砂川由利子委員、砂田俊彦委員、平井誠二委員、村上テル子委員（委員は五十音順）</p> <p>【事務局】 港北区長、港北区副区長、港北区区政推進課長、港北区地域振興課長、文化観光局文化振興課長、有限会社空間創造研究所 ほか関係職員</p>
欠 席 者	稲田奈緒美委員
開 催 形 態	公開（傍聴者 2 人）
議 題	1. 第 1 回委員会会議録の確認について 2. 区民文化センターニュース 第 2 号の発行について 3. 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトに関する意見交換
決 定 事 項	本日出された各委員の意見を事務局にてまとめ、次回検討の際の参考とする
議 事	<p>開会</p> <p>（間瀬委員長） それでは、定刻となったので、ただいまより「第2回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会」を始める。 今日は、港北区民交響楽団の砂田委員が初出席となるので、まずは砂田委員から一言自己紹介を頂ければと思う。</p> <p>（砂田委員） 港北区民交響楽団の前団長を務めた。現団長に代わり委員として出席している。区民交響楽団は 30 年活動を続けてきた。区民の役に立つようなホールができるよう、意見を述べさせていただきたい。</p> <p>（間瀬委員長） ありがとうございます。 それでは、議事に入る前に、条例に基づく定足数の確認について事務局より報告をお願いしたい。</p> <p>（事務局） 「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第 6 条第 2 項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。」と定められている。本日の出席委員数は、現在定数 12 人のうち 11 人である。 よって、出席委員数は半数以上で、本会が成立していることを</p>

報告する。

なお、本会議については原則公開と定められているが、本日は傍聴人が2人いらしているので御了承いただきたい。

(間瀬委員長) ただいま報告のとおり、条例に基づき委員会が成立していることが確認できたので議事に入る。

1. 第1回委員会会議録の確認について

(事務局) 資料2について説明

(間瀬委員長) ただいまの説明について御異議・御質問等はないか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 異議が無いようなので第1回委員会会議録を事務局作成のとおり確定とする。公開の手続きをお願いしたい。

2. 区民文化センターニュース、第2号の発行について

(事務局) 資料3について説明

(間瀬委員長) 区民文化センター見学会に参加された方の御感想をお伺いしたい。

(平井委員) 緑区民文化センター、神奈川区民文化センターの両方を拝見した。両施設とも、利用者がいかにセンターを有効活用できるか、利用者目線でいかにプラスになるかを最優先に造られている、というお話をお伺いした。

一方で、緑区民文化センターでは、職員の会議をする場や、掃除の方の休憩スペースが無いとのことだった。限られたスペースの中では、利用者目線が優先となり、そうしたことは後回しにされがちだが、よりよい運営のためには配慮が必要と感じた。

個々の施設の細かい点については、後ほど行われる議論の中でお話しできればと思う。

(砂川委員) 緑区民文化センターは新しく、設備も素晴らしいと感じた。特にピアノは素晴らしかった。しかし、ピアノは非常に高額なもの

で、どれだけの方に聴いていただけるかということと、金額のバランスを取るのが難しいと感じた。

また、平井委員がおっしゃったことと同様のことも感じた。

展示スペースに関しては、利用者の要望が設計に反映されていない部分も多かった。利用者の要望を設計者がどれだけ汲み取れるのかが難しいと感じた。

(岡本委員) 緑区民文化センターはとても綺麗な区民文化センターであり、見学しながら、港北のニーズにあったものを造るにはどうしたらいいかを考えた。

(村上委員) 緑区民文化センターにはピアノ庫も完備され、素晴らしいピアノがあった。しかし、ピアノの 10 分の 1 ほどの金額の所作台は利用者が少ないから備品として持っていないとのことで、寂しく感じた。

リハーサル室を楽屋として利用する場合に、舞台と裏動線で繋がっていないとのことだった。化粧等をしている場合は表に出られないので、楽屋から舞台への裏動線は必要だと感じた。

また、両館とも空調がうまく作動しないところがあるとのことだったが、設計上で無理があったのではないかと感じた。

(間瀬委員長) ありがとうございます。

この後の議論でも、見学いただいた施設の不具合等について御発言を頂ければと思う。

区民文化センターニュース第 2 号を確定としてよいか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 区民文化センターニュース第 2 号を事務局説明のとおり確定とする。第 2 号発行の手続きをお願いしたい。

3. 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトに関する意見交換

(間瀬委員長) 前回は事務局からのレクチャーを元に皆さんから一言ずついただいたところだが、今回は前半で施設のスペック・仕様、後半で区民文化センターの運営方法やコンセプトなどについて意見交換し、次回までに、意見を踏まえた答申のたたき台の作成をしたいと思う。

	<p>については、事務局が前回の意見交換を踏まえて資料を用意している ので、説明をお願いしたい。</p>
(事務局)	資料4 おもて面について説明
(空間創造研究所)	資料5 について説明
(間瀬委員長)	まずはホール、音楽ルーム（リハーサル室）、ギャラリーについて御意見をお伺いしたい。
(山本委員)	港北公会堂は、演劇、音楽、多目的のうちどの分類のホールとなるのか。また、3つのタイプの中では、どのタイプ稼働率が高いのか。
(事務局)	港北公会堂は集会所という扱いである。文化芸術活動に特化しているわけではなく、講演会やセミナーを行う場所に近いので、文化芸術活動には使い勝手が悪いという声もある。横浜市の区民文化センターにおいては、多目的ホールの稼働率が一番高い。
(山本委員)	区民の活動分野は多岐に渡っており、どのようなニーズがあるのかが難しいところである。
(事務局)	アンケート調査では音楽の利用が最も多いが、演劇やダンス、舞踊や、絵画展示などギャラリーを利用する活動も多く、幅広いニーズがあることが港北の特徴かと思う。
(山本委員)	例えば、音楽に特化した形のホールを運営することは難しいのか。
(間瀬委員長)	音楽ホールは、多目的ホールに比べ舞台袖が狭く、大道具の捌きなどに影響するため、利用の用途が制限される傾向にある。ただし、多目的ホールであっても音楽公演を行うことは十分可能である。例えば、杉田劇場を整備する際には、「音楽公演も実施できる多目的ホール」を整備することとし、残響時間等にも考慮した。
(恵志委員)	まず、実際に利用する人はどのようなホールを使いたいかの希望を聞き、その利用に必要なものはどんな施設機能なのか、とい

	<p>うことを検討しなければならない。ホールの目的を達成するためには、どの程度まで対応が必要なのか、ということから考えた方が良いのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) 私がいくつかの区民文化センターの館長を務めてきた経験として、基本的に区民文化センターは「何でもあり」というのが実情である。利用者全員が満足する機能を備えることが求められるが、それが実際に可能かどうか、という話である。</p> <p>(砂田委員) 港北区民交響楽団ではこれまでに、みなとみらいホール、神奈川県立音楽堂、神奈川県民ホール、港北公会堂で演奏したことがある。また個人的には東京文化会館や東京芸術劇場などでも演奏を行った。</p> <p>音楽ホールは音楽にしか利用できない。鎌倉芸術館のような可動式の音響反響板を備え、音楽以外にも利用できる多目的ホールが良いのではないか。ただし、音楽ホールであっても、必ずしも袖舞台が無いというわけではない。</p> <p>ギャラリーに関連してだが、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールの、ラポールボックスをリハーサルで利用していた。主にギャラリーとして使える多目的室だが、天井高があるため、音楽の練習にも利用できる。あのようなギャラリーは使い勝手が良いのではないか。</p> <p>(村上委員) 多目的ホールは皆に利用価値があると思う。色々な分野の方が活動しているので、多目的ホールにしてほしい。</p> <p>私たちの活動では着物を着るので、和室の楽屋が1室はほしい。神奈川区民文化センターではござを貸し出すとのことだったが、畳とござでは違う。また、楽屋にはお湯の出る流しが必要ではないか。</p> <p>緑区民文化センターのギャラリーは使い勝手が悪いとのことだった。専門分野の方が入り設計をした方がよい。</p> <p>ホールは、客席勾配が急だと観客が大変である。ある程度緩やかにできればと思う。</p> <p>(間瀬委員長) 観客からの「前の人邪魔で舞台が見えない」という苦情に答えるため、近年特に勾配がきつくなっている。</p> <p>神奈川区民文化センターは客席勾配が比較的急である。逆に、国立劇場のように、勾配がゆるく、前方と後方で花道分の高さ程</p>
--	--

	<p>度しか差がない劇場もある。</p> <p>ギャラリーは、裏動線も含め、設計時に一緒に議論していかななくてはならない。</p> <p>(村上委員) 緑区民文化センターのリハーサル室には、壁面にバレエバーが設置されていたが、あれでは両側からは利用できず、使い勝手が悪い。実際に利用する方が設計段階で指摘せねばならない。また、リハーサル室はリノリウムが常に敷かれている状態になっていた。</p> <p>(間瀬委員長) リハーサル室の壁面にバーを設置すると、鏡をカーテンで閉めないと発表会等が実施できない。また、バーの両側でレッスンすることも不可能になる。リノリウムは敷きっぱなしにするのではなく、ホールで備品として備え、利用者が敷き、使い終わったら片付けるという運用をしているホールが多いだろう。</p> <p>(岡本委員) 皆さんのニーズから考えると、多目的ホールとするのが良いのではないか。ただし、舞台面を広くとっていただきたい。緑区民文化センターもフルオーケストラは舞台に乗らない大きさだった。客席前方の座席が取り外しでき、舞台が拡張できるなど流動性のある舞台にしていだけたらと思う。区民ミュージカルの際は、港北公会堂の可動席を全て舞台としている。</p> <p>(砂田委員) 区民交響楽団でも同様に対応している。</p> <p>(岡本委員) 緑区民文化センターは水平線裏が通れるようになっていたので良かった。</p> <p>音楽ルーム・リハーサル室に関しては、舞台面と同じ大きさが確保できていると、リハーサルや簡易的な発表会ができる。出来る限り広い面が欲しい。</p> <p>また、我々の場合 50 人もの出演者がいるので、大きな楽屋がないと入りきらない。間仕切り等で出演者に応じた広さに区切って利用できる楽屋がほしい。客動線を通らずに会議室から舞台袖までいけるようになっていれば、会議室を楽屋として利用することも可能である。</p> <p>ラポールボックスは練習で利用するが、壁面が可動式なので、様々なニーズに応じて広さを変えられる。そのように多くのニーズに対応できるようになっていけばと思う。</p>
--	--

(間瀬委員長) リハーサル室や会議室を楽屋利用するという事は、施設配置の検討で解決できる。配置や動線等も合わせ意見を頂きたい。

(木村委員) 私たちはダンスでホールを利用することが多いが、様々な公演に対応できることを考えると、多目的ホールが幅広く利用できるのではないかと。多目的ホールを補う音響反響板などを充実させれば、お金をかけなくても、広いジャンルを楽しめるホールになるのではないかと。

楽屋については、ダンスフェスティバルも出演者が250人程度いるので毎回大変である。公会堂では2階の会議室からロビーを歩いて舞台袖に行っているが、今後の対策が必要である。音楽ルームやリハーサル室を楽屋として利用することを考えると、同じフロアに楽屋と並べて練習室やリハーサル室を配置すれば、出演者の人数により楽屋を増やすことが可能となる。

茅ヶ崎市民文化会館では、楽屋と練習室、展示室が扉を隔てて繋がっており、楽屋のみの利用の際には扉を閉め、多くの楽屋を利用したいときは扉を開けることで練習室や展示室を楽屋として利用することができる。配置を考えれば、楽屋の問題はかなり解決するのではないかと。

床面は、コンクリートの上にPタイルのような床だと、固く足を痛めてしまう。可能であれば木の床がよい。リノリウムは備品として備えればよい。港北公会堂は備品のリノリウムがなく、団体のものを区役所に保管していただいている。利用するのはダンスの団体だけではないが、他のジャンルとも意見を摺り合わせ、考慮していただけたらと思う。

(間瀬委員長) 備品が増えると、多くの倉庫が必要となる。そのバランスも難しい問題である。

(砂川委員) 多目的ホールが良いと思う。私が最初に体験した多目的ホールはラポールだった。ラポールは可動式の客席だったが、今は神奈川区民文化センターのように固定席の多目的ホールも多くある。可動客席になるタイプの多目的ホールで、平土間形式でダンス等に利用している施設もある。どういうタイプの客席にするかは、ニーズ等を見て判断していくのではないかと。可動客席は人が移動する時に音がするので、観客から見たら固定席がよいのではないかと。

私は合唱団として活動しているが、グループによって人数のばらつきがある。8人程度のグループから、多い時では90人もの利用がある。諸室を間仕切りで区切り、人数の変化に対応できればと思う。また、練習には声を出すので、防音等との兼ね合いも難しい。

ギャラリーは照明の明るさが調光できることが重要である。また、お年寄りが展示準備の際に脚立などを利用し、怪我をされることがあるとのことだった。今の時代は、展示の補助ができる機械や自在に長さを変えられる展示用のワイヤーなどがあるのではないか。そういったものを有効活用したい。

(間瀬委員長) 可動客席は、基本的には平土間としての利用もできるようにするために設置される。例えば、平土間にするだけで展示や社交ダンスなどを行うことができる。可動客席はいわば究極の多目的ではあるが、ホールとして利用する場合には問題がある場合もある。音響性能については、昔よりよくなってきているとは言われている。どの範囲までの多目的とするかは、また議論をしたい。

(平井委員) 利用する方々が多目的ホールが良いというならば、それで良いと思う。

客席は車椅子席をなるべく多く確保できるとよい。緑区民文化センターは合計4席といていたが、神奈川区民文化センターは前の2列を外し、その2列全てを車椅子席として対応出来るとの事だった。将来的なことを考えると、神奈川区民文化センターのように手厚い対応があっても良いのではないか。ただし、外した椅子の置き場所なども問題になると思う。駅から直接のアクセスが出来る施設、という面からみても車椅子の方が利用しやすい施設となるので、対応を考えていただきたい。

ギャラリーだが、掛け軸など、ある程度大きな作品が展示できる天井高がほしい。神奈川区民文化センターでは、ギャラリーの一部を高くしていたので、そのような対応も可能かと思う。書道などをされている方にとっては、天井高が必要となる。

ギャラリーの多くは一週間単位で貸し出されており、主催者は常に会場にいななければならないが、主催者控室がないとまったく休憩ができない。主催者側の利用が不便だといわれていた。狭くても休憩や歓談ができるスペースが必要と感じた。

また、以前緑区民文化センターのリハーサル室で講演会を開催されていた。このように、利用状況としては、部屋の名称以外の

	<p>目的にも利用されている。部屋の名称を工夫し、区民に広報することで、主目的のリハーサル以外にも利用しやすくなるのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) 杉田劇場はリハーサル室の愛称がコスモスだった。条例上はリハーサル室であり、公にコスモスとすることはできなかったが、愛称としてチラシに掲載することは運用の中で可能である。</p> <p>(大谷委員) 港北には多様な文化があるので、多目的ホールが一番よいのではないか。現在の計画では区民文化センターは2フロアに渡るとのことだが、座席数についてもなるべく確保をしていただきたい。</p> <p>リハーサル室については、用途をリハーサルに特定せず、音楽ルーム等としても利用できるように設計をするのが良いのではないか。</p> <p>ギャラリーはどの程度のスペースが確保できるかにもよるが、間仕切りの必要がある。また、天井高が3m以下では、作品の展示に堪えないのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) ギャラリーは何号位の絵まで展示できればよいか。</p> <p>(大谷委員) 200号程度の展示を行いたい。</p> <p>(間瀬委員長) 国立新美術館では、ピクチャーレールが2段になっており、2段の展示が可能になっている。そのような設備を整えれば、大きな作品から小さな作品まで対応できる。</p> <p>(和泉委員) 多目的ホールがよいのではないか。ギャラリー、リハーサル室、練習室と用途を限定しないのは良いと思う。</p> <p>また、和室の控室が欲しいとの意見があったが、和事をされている方はみなそうおっしゃっている。</p> <p>(間瀬委員長) 藤沢市民会館は、楽屋4部屋のうち1室が和室だったが、海外オーケストラなどの際にはベニヤを敷いて土足が可能なように対応した。逆に和室が必要な際には、50枚程度畳に近い床材を用意しておいて、リハーサル室に敷いて対応したこともある。</p> <p>和室、洋室ともに需要があり難しいが、和室が重要という意見がお二方からあったことは記録しておいていただきたい。</p>
--	--

	<p>(山本委員) 皆さんの意見を伺い、多目的ホールの希望が多いのは最もだと感じた。音楽よりの多目的、演劇よりの多目的にするか、などは今後の調整が思う。</p> <p>複合施設になるが、空調は区民文化センターだけ独立しているのか、セントラルになるのか。</p> <p>(間瀬委員長) 設計、施工段階の話なのでどのようになるかはわからないが、杉田劇場の場合区民文化センターと他の施設との空調は別になっていた。ホール事務所に中央監視盤があり、空調関係を遠隔操作し、部屋ごとに温度設定ができるようになっていた。可能ならば、楽屋毎に空調を設定できたほうが良いと思っている。</p> <p>(山本委員) ギャラリーの調光だが、ダイヤルで明るさが調整できる設備は備えた方が良い。また、高さについては、ピクチャーレールを中段にも設置し2段とすることで、低い場所にも展示できる。また、作品は光源から離れたほうが綺麗にみえるので考慮していただきたい。</p> <p>年配の方が高所作業で事故を起こすことはある。国立新美術館では、展示は業者が作業することになっている。趣味で展示活動を行う場合なるべく経費を抑えたいということも理解できるが、脚立から落ちるのは大きな事故となる可能性がある。</p> <p>(間瀬委員長) 照明の回路は調光ができるように考慮していただきたい。ピクチャーレールを2段に設置すれば、様々な展示に対応可能かと思う。</p> <p>(恵志委員) 「ハレの日の発表会としての舞台がこうあったらいい」という意見が多いが、実際には音楽ルームやギャラリーは、様々な使われ方をされるだろう。</p> <p>世田谷パブリックシアターは劇場が2つあり、各ホールの舞台面の広さがとれる2つの稽古場と、それより小さいがリーディング（本読み）等が可能な稽古場の3つを持っているが、劇場制作の本数は多くなくても稽古場の利用はいっぱいである。</p> <p>発表は週末の2日間でも、練習は本番から遡って1か月、2か月必要となる。毎週末発表会があるとすると、発表には使えても、稽古場は区民文化センター以外で探さねばならない。ホールの稼働率を上げながら皆さんがリハーサル室を利用するには何室必要かの検討が必要と感じた。世田谷パブリックシアターでは、ワ</p>
--	--

	<p>ークショップなどは他のセクションの展示スペースを借りることもある。</p> <p>以前に、ホールの自主事業としてワークショップなども検討したいという話があったが、ホールで行うのか、他に場所を見つけるつもりなのか。区民文化センターで行うとすると、ますます練習利用と競合する。色んな人が活発に活動する面白い場所となるためには、リハーサル室等の検討が必要である。</p> <p>稽古場の天井の高さは大切である。稽古場で発表会をすることもあるが、ある程度高さがある諸室とそうでない諸室では印象が全く違う。稽古場を色々と活用する、という意味では、広さよりも高さが重要と思う。</p> <p>(間瀬委員長) 展示ギャラリーに水場は必要か。</p> <p>(恵志委員) 美術系のワークショップをするならば、手が洗える水場があったほうがいい。諸室に水場が無くてもバケツ等で対応することも可能だが、室の中には無くとも近くには必要になるだろう。</p> <p>(砂田委員) 舞台面はなるべく広く確保してほしい。200 m²程度取れると良い。奥行 20m、間口 19~20mを確保できるとよい。神奈川県立音楽堂がその程度だが、200 m²程度確保できれば、オーケストラが可能である。</p> <p>港北区には約 40 年の歴史を誇る吹奏楽団もある。リハーサル室を充実させていただきたい。現在はリハーサル室が不足しており、港北公会堂や都筑公会堂、神奈川中学のコミュニティハウスなどを転々として練習している。港北区内で練習をしたい。</p> <p>オーケストラや吹奏楽の練習をするのに必要な大きさとして他施設の事例を上げると、東京文化会館地下の A リハーサル室が木の床で 175 m²、B リハーサル室は 135 m²、みなとみらいホールリハーサル室は 212 m²、東京芸術劇場は 162 m²、ラポールボックス 240 m²である。ラポールボックスは部屋の形状がいびつなため、実質は 200 m²以下だろう。200 m²程度あれば、交響楽団や吹奏楽団は非常に良い。またギャラリーと兼用することも可能かと思う。先ほどギャラリーの天井は高いほうが良いという意見が多く出ていたが、交響楽団・吹奏楽団の練習スペースとしても天井が高いほうが望ましいので、そういう意味でマッチするのではないか。残響などはそれほど贅沢を言わないので広さを確保してほしい。スペースが無ければ、ギャラリーと兼用でも構わない。</p>
--	---

	<p>(リハーサル室の) ピアノはフルコンでなくて良いので、グランドピアノと、ピアノ庫を備えてほしい。また、ピアノを台ごと移動できる装置があるとよい。</p> <p>(村上委員) ホールの音響と照明を充実させていただきたい。また女性用のトイレの数にも配慮していただきたい。</p> <p>(岡本委員) ホールが4、5階になるので、搬入が大変だと思う。可能ならば奥行6 m程度の大きなエレベーターがあればよい。パネルを分解しないためには6 m必要である。また、楽器を運ぶなどのためにもエレベーターは必要となる。搬入口には4 tトラックが付けられなければ困る。</p> <p>また、舞台においては、パネルを飛ばせる高さを備えたフライオフトを備えてほしい。袖幕は深くしてほしい。また、非常灯を減光できるタイプにしてほしい。</p> <p>舞台装置を修正する際に水場があると良い。港北公会堂は水場がないためにトイレに流している。舞台袖に水場が無くてもよいが、近くには設置していただきたい。ドライアイスの水を捨てる流しも必要である。</p> <p>(間瀬委員長) 弦楽器は水を嫌うという、演劇と音楽で反する面もある。多くは、舞台近くのトイレの掃除用の大きい流しを使うなどで対応している。</p> <p>区民文化センターのエレベーターはどこも、基本的に12尺のものが入るように設置されている。それよりも大きな6 mとなると特注しなくてはならないので、経費が相当高くなる。みなとみらいホールはピアノが2台乗るエレベーターが設置されている。搬入口の位置と舞台袖の関係などは設計で工夫していただきたい。</p> <p>(木村委員) 団体が小さかった頃は、リハーサル室に幕やスクリーンを仕込んで、簡易的な発表会を行っていた。例えば鏡を隠すことができ、ピアノの搬入が可能ならば、ピアノ発表会の実施も可能である。機能を充実させることにより、リハーサル室の利用価値が上がるのではないか。</p> <p>ギャラリー展示について、展示作業を業者に頼むべきとのことだったが、ダンスフェスティバルでも、プロの舞台監督についていただき、吊り物やバトンの昇降は舞台監督が行っている。以前</p>
--	--

	<p>(大谷委員) 多機能な施設を整備しなければならないので、どこに重点を置くかは難しい。多目的ホール、リハーサル室、音楽ホール、ギャラリーは特に大きな要素である。他の施設を参考にしながら、良いものを造っていただきたい。</p> <p>(和泉委員) 多目的ホールであるということ、またリハーサル室、ギャラリーが重点となる。いい案を出し、港北のシンボルとなる施設になればと思う。</p> <p>(休憩)</p> <p>(間瀬委員長) 会議を再開する。 引き続き、諸室、練習室・会議室・情報コーナー等、また建物全体の動線や活動内容に関する意見も頂きたい。</p> <p>(和泉委員) これまでに様々な意見がでた。これから作る施設なので事務局でも良い案を出し、良い施設になればと思う。</p> <p>(大谷委員) 練習室は必要不可欠である。会議室は緑区民文化センターのように、2室に区切って利用できるようにするのが良いのではないかな。 区民文化センターなので、情報コーナーの図書などはある程度揃えていただきたい。情報コーナーと交流ロビーは兼ねている場合が多いので、可能であればカフェのようなものを考えていただきたい。 利用者が集まり、話ができる場所が必要である。他の区民文化センターを良く見学して、ホワイエの広さなどを調整できればと思う。</p> <p>(平井委員) 見学の際に、練習室の利用が一番多いと伺った。神奈川区民文化センターは練習室が2室と少なく、利用希望者が溢れている状況とのことだった。広さの違う部屋を3室以上整備したほうがよい。 情報コーナーと活動支援機能はまとめて一つでも良いとも思うが、交通の便が良い所なのでホールや練習室を利用する以外にも、情報を集めたり作業室を利用したりという目的で来館者が増えるような設計をしていただきたい。</p>
--	--

	<p>廊下の隅にチラシを置いてだけで「情報コーナー」としている施設もあるが、いかがなものか。また、コピー機や印刷機は必要となるので備えていただきたい。</p> <p>緑区民文化センターは、交流ロビーにミーティング用の机がなく、打合せが出来ないとの事だった。机と椅子があるスペースは必要である。</p> <p>駅から施設への動線は確保されるとおもうが、駐車場からの動線はどれだけ確保できるのか。身障者の駐車場からのアクセスにも配慮してほしい。駅直結の施設であっても車で来館する人もいる。</p> <p>(間瀬委員長) 神奈川区民文化センターは駐車場が無かったので、数台の駐車場をホールが借り、利用者に提供していた。今回、駐車場がどのようなシステムになるかはまだ見えないが、駐車場の動線、客動線は全体の中で議論が必要である。</p> <p>(砂川委員) 練習室は複数が必要である。少人数から大人数に対応できるようにしていただきたい。また、会議室は利用人数に応じて間仕切りで大きさが可変できるように考えて頂きたい。</p> <p>情報コーナーは、机と椅子があり、話せるスペースがあればよい。その他の活動支援機能として利用者用ロッカーとコピー機は必要である。</p> <p>(木村委員) 練習室と会議室は区切りを無くし、どちらにも対応できるようにしてはどうか。どの部屋も音を出しても大丈夫なようにし、どんな用途にも使えるようにした方が使い勝手が良いのではないかと。また、リハーサル室の他に広めの部屋を造り、そこを区分して利用すれば、フレキシブルに利用できるのではないかと。</p> <p>情報コーナーについては、単に情報として冊子やチラシや登録団体名簿があるだけではもったいない。理想だが、情報収集をしたり、練習場所を探したりといった手伝いや団体同士の連絡を結ぶコンシェルジュ的な役割の人がいるとよい。</p> <p>区役所内にある区民活動支援センターの会議室を利用することがあるが、職員が近くにいると疑問点をすぐに解決することができる。会議する場所と管理者が近いことが重要である。</p> <p>(間瀬委員長) 杉田劇場には「館長に聞け」という文化よろずコーナーがあったが、実際は利用の問い合わせがほとんどだった。これからは、</p>
--	--

	<p>地域の施設で求められることは専門人材を配置することだと言われているので、可能なことかと思う。</p> <p>(岡本委員) ドラムセットなどが置いてある小さな練習室が複数整備されている施設が多いが、私たちの団体としては大きめの練習室がほしい。会議室を防音にして練習室として使えるようにしていただきたい。また、女性用トイレの数は十分に配慮していただきたい。</p> <p>作業室にはコピー機だけでなく、印刷機が置いてあるとよい。また、飲食禁止の部屋が多い。情報コーナーなど、飲食可能な場所がほしい。</p> <p>施設は駅からアクセスできるとのことだが、相鉄・東急直通線からは連絡しているが、東横線からは徒歩になる。将来的にでも、東横線から新線への乗り換え地下道ができると良いと思っている。</p> <p>(間瀬委員長) 飲食可能かどうかというのは運用の問題となる。</p> <p>必ず汚す人が出るため、禁止ということになる。</p> <p>(村上委員) ロビーに休憩できる椅子を増やしてほしい。区民文化センターを見学したが、椅子の数が少ないと感じた。また、女性用トイレの充実をお願いしたい。</p> <p>(砂田委員) バンド練習が可能な練習室について、最近ではおやじバンドなども増えているので、数を増やすことが必要だと思う。ピアノは、アップライトではなくグランドピアノを備えてほしい。また、駐車場は何台程度あるのか、楽器を運んだりするので、なるべく確保していただけたらと思う。</p> <p>団体が練習の前後に打ち合わせができる場所があると良い。</p> <p>現在、各団体がティンパニーなど大型の楽器を逐一倉庫から運んでいる。港北区で実績のある団体に限って倉庫の貸与を行うなど検討していただけないか。</p> <p>(間瀬委員長) 楽器搬入の問題は以前からずっとある。演劇の団体ならば舞台装置や道具を置く場所がほしいだろう。どうしても、全員の要望に沿うのは難しい。また、楽器を預かるのは怖いので、私が運営していた頃にはお断りした。ただし、保存状況を気にしないという条件で、駐車場にコンテナを置いていたことはある。</p> <p>倉庫については、区民文化センターではなく、文化団体が活動</p>
--	--

する上での課題となるだろう。

(恵志委員)

区民文化センターの近隣には、バンド練習ができるようなスタジオ等があるのか。もし、現状で小さな場所はあるが大きな練習場がないとのことだったら、民間で足りない部分を公が補うという考え方もあると思う。利用者の皆さんで考えていただければと思う。練習場や会議室は、数が多ければ多いほどよいので、何室の整備が可能かは検討していただければと思う。

やはり、区民文化センターなので、施設の入ってすぐの場所に、カフェなどの打ち合わせスペースとして、区民が集える場所があるとよい。例えば、福祉作業所が作ったクッキーを売るカフェがあるなど、色々な方々がカフェを通じて販売できることもあってもいいと思う。

また、多少は自主事業をしたいとなった時に、それを誰が担うのか。外部の人が企画するということもあるが、皆さん熱心に活動されているので、企画を考えることもできるだろう。区民が企画を考えるときに利用できる、仮事務所のようなオープンスペースがあっても良いのではないか。

(山本委員)

カフェの設置は賛成する。国立新美術館は、オープンしてから新たに下のフロアにテーブルと椅子だけの簡易的なカフェを設置した。結果、レストランよりもカフェが一番利用されているとのことである。人件費などの問題はあがるが、親密な雰囲気のオープンカフェは交流の場になる。

(間瀬委員長)

サンハートと杉田劇場、テアトルフォンテは、テーブルと椅子がある場所に自販機を設置している。

どの施設もホールのホワイエに飲食物を提供するためのカウンターを造るが、儲けを出すことが難しいので、運営する人がいない。

(砂川委員)

緑区民文化センターは、ロビーにバーカウンターを設置したが、利用したことはないとのことだった。

(間瀬委員長)

販売業者を入れても人件費分の儲けがないのが実情である。杉田劇場では、下のフロアにあるパン屋に休憩時間だけ来て販売してもらっていた。

(恵志委員)	世田谷パブリックシアターでも、区内のパン屋に開場の時間だけ来てもらっていた。
(間瀬委員長)	みなとみらいホールでは、ホールを借りるとレセプションもセットになっている。また、自由席ではなく指定席でないとならないなどの制限もあった。区民文化センターでそこまでやるかどうか、という話もある。
(村上委員)	今はみなとみらいホールでも、自由席が可能になっている。バーカウンターではなく、自販機が落ち着く所ではないか。
(間瀬委員長)	利用者が打ち合わせをできる場は必要となる。
(平井委員)	緑区民文化センターでは、自販機を置く場所が情報コーナーになっており、自販機があるためにチラシが少ししか置いていなかった。設計段階で自販機の場所が決まっていれば問題なかったことだろう。
(間瀬委員長)	杉田劇場は設計段階から自販機の設置場所を決めていた。設計段階から可能なのであれば空間を決めたほうがよい。
(山本委員)	ギャラリーの壁面にピンが打てないという話がでていたが、どのような壁なのか。最近ではピンではなく、貼るタイプの展示用品もでている。
(間瀬委員長)	壁面がコンクリートのような固いものや、裏側が石膏ボードのまま、ピンを挿すと壁がぼろぼろと崩れるような素材もある。実施設計の段階で、どんな部材を使い、どのような仕上げになるのかをチェックしなければならない。
(大谷委員)	今度の区民文化センターは新たな相鉄・東急直通線の駅から連絡しているが、東横線の利用者は直線距離にして 200m 程度、外を歩かなくてはならない。東横線の駅から施設までの地下道は確保し、傘をささなくてもアクセスが可能のようにしたいと地域の人は希望している。
(間瀬委員長)	資料 4 裏面にある施設のコンセプト・運営についての議論は次回に持ち越しとしたい。また、施設のコンセプトに関するキャッ

	<p>チフリーズは、平井委員に案をお願いしたい。</p> <p>本日御欠席の稲田委員からコンセプト・運営について御意見の御連絡を頂いているのでこの場で御紹介したい。</p> <p>(事務局) 稲田委員からの意見について説明</p> <p>(間瀬委員長) 次回までに事務局には答申のたたき台の作成をお願いしたい。次回それと併せて、今回できなかった議論も行っていきたい。これで本日の審議事項は全て終了した。</p> <p>閉会</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>資料1 第2回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料2 第1回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録</p> <p>資料3 港北区 区民文化センターニュース 第2号(案)</p> <p>資料4 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトについて</p> <p>資料5 区民文化センターの分類</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回は、平成27年11月25日(水)午後1時半開催予定。</p> <p>場所は港北区役所特別会議室を予定。</p>